

会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県歴代宝案編集委員会
日時	平成30年(2018)11月16日(金)13:30～17:00
場所	沖縄県公文書館 会議室
出席委員名	赤嶺守・生田滋・井上秀雄・上里賢一・金城正篤・高良倉吉・田名真之・都築晶子・豊見山和行・西里喜行・濱下武志・夫馬進・渡辺美季
議題及び報告事項	<p>一、議題</p> <p>1 審議事項</p> <p>(1) 訳註本の進捗状況と問題点</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成29年度の刊行物</p> <p>(2) 平成30年度予定刊行物</p> <p>(3) 歴代宝案デジタル化事業について</p> <p>(4) 第12回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム(北京開催)について</p> <p>(5) 平成30年度国内調査について</p> <p>(6) 平成30年度国外調査について</p> <p>二、档案馆招聘者報告</p> <p>(1) 高建平(ガオ・ジェンピン)中国第一歴史档案馆 弁公室主任 「中国第一歴史档案馆における最近の活動成果と今後の中琉档案編集計画の紹介」 (中国第一歴史档案馆近期発展成就及未来中琉档案編研計画状況紹介)</p> <p>(2) 孫浩洵(スウン・ハオシュン)中国第一歴史档案馆 満文処翻訳科主任科員 「乾隆六十年の琉球貢船略奪事件再論」 (再論乾隆六十年琉球貢船被却案)</p>
議事の概要	<p>一、議題</p> <p>1 審議事項</p> <p>(1) 訳註本の進捗状況と問題点 訳註本の進捗状況を報告。訳註本の読み下しの問題点として「経」の読み方および「表文と満文」について、赤嶺委員から問題が提起された。難解な表文の読み下しを行う際の満文史料の有効性などが議論された。将来的な現代語訳を考えれば、編集委員会での一定度の読みの統一が必要となること、満文は現代語訳の参考資料となることから補遺編などで刊行していくことなどが議論された。</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成29年度の刊行物について報告。</p> <p>(2) 平成30年度予定刊行物について報告。</p> <p>(3) 歴代宝案デジタル化事業について 平成33年度に公開予定のウェブシステムの概要、スケジュール、公開範囲、基本イメージについて報告が行われた。訳註本を中心とした全文テキストデータの公開とともに、技術的な問題から将来的な課題として校訂本のテキストデータ公開があることが確認され、世界に向けた歴代宝案の発信を検討していくことが確認された。</p> <p>(4) 第12回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム(北京開催)について報告。</p> <p>(5) 平成30年度国内調査について 公益社団法人陽明文庫での調査について報告が行われた。</p> <p>(6) 平成30年度国外調査について ①台湾における史料調査、②山東省・河南省での調査について報告が行われた。</p> <p>二、档案馆招聘者報告</p> <p>(1) 高建平(中国第一歴史档案馆 弁公室主任)により、近年の中国第一歴史档案馆における事業の紹介が行われ、琉球関係の新史料が確認されていることが報告された。</p> <p>(2) 孫浩洵(中国第一歴史档案馆 満文処翻訳科主任科員)により、琉球貢船への略奪事件に対し地方当局による救助や捜索、賠償などがどのように展開したのかが報告された。</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	教育庁文化財課
問い合わせ先	史料編集班 担当:山田浩世 電話 098-888-3939
備考	